


たんぽぽ



NO. 33
H 2. 2. 28
—発行—
〒869-12
熊本県菊池郡
大津町森54-2
社会福祉法人
三気の会
三気の聖
TEL096
293-8100

アメリカの母

理事長 田中 稔

TV番組「徹子の部屋」に芥川賞作家の米谷ふみ子さんが出演されていました。米谷さんはアメリカに住み、ユダヤ人の男性と結婚し二人の子供さんに恵まれました。下の子供さん「ノア」が脳障害児でした。(米谷さんは自閉症という言葉は一度も使われなかった) 育児は文化ですから三つの異なった文化の中で障害児を育てる事は大変な事です。徹子さんが初めに「アメリカでの自閉症児者の現状はどうですか？」と尋ねると、開口一番「母親達は疲れ果てています」と言われました。番組にはご主人も一緒でした。そのご主人が「ノア」との生活を(愛)(憎)を交えて日記の形で書きつづった

物が「ノア三部作」(わが子ノア)(ノアの場所)(依頼人ノア)です。

世の中が目まぐるしく変わる中で障害児とその家庭の記録は、たとえ平凡な一個人の記録であつても見つめるに値するとして、有名な雑誌「ライフ」に一部が掲載され全米に大きな反響を呼びました。夫人の米谷さんが日本語に訳して「文芸春秋」から出版されています。

子供の誕生の喜びから始まって、少しおかしいと感じながらも認めたくない、受け入れたくないという思い、やがて現実を受け入れなくてはならないという決意。現実になたって療育の場を求めてさまよう様子。夫婦家庭崩壊の危機。思い出しても身の毛がよだつと表現

された思春期。親なき後、人間らしく生きて生ける場を求め理想的ではないが最後の妥協をして、親元を手放すまでが書かれています。

これは正に、日本の親達の姿でもあります。米谷さんは言っています。「契約社会アメリカの弱者に対する裏面をいやという程嘗めさせられた」「役人や心理学者や精神科医の傲慢な浮世離れた勝手な解釈、自分の立場と権利を守る事に一生懸命な態度はシヨールピジネスの世界を見る思いでした。」「今、これらを読み直してみて生々しい戦争記録を読んでいる様な気がします。」

「これからの自分の仕事は、作家としてありのままの親の心、生きざまを書き残していく事です。」
これからどんな本を書いて頂けるのか楽しみにしています。



療育シリーズ

どうして破ったの

園長 土井尚典

夕方の4時に作業が終わり入浴前のくつろいだ時間の出来事である。職員室に元気良くKちゃんが入って来た。「いらっしやい！」と言って、Kちゃんを見ると服装がおかしい。ジャージのズボンが右足だけ膝から下が無い。Kちゃんに「ズボンどうしたの？」と尋ねるとスーツと職員室を出て行くとうとする。呼び止めて、ズボンが破けている理由を聞こうと思った。Kちゃんの顔は既に叱られることを覚悟した顔であった。Kちゃんはこのごろ服を破いている現場を職員によく見付かっている。職員申し合わせは現場を見たときだけ叱る事になっている。今回は、私は現場を見ていないので叱る事はない。しかし、Kちゃんは叱られると思っている。「Kちゃん、ズボン破けているよ」と言うと、い

きなり「ズボンやぶった」と返事が来た。「誰が破ったの？」と尋ねると、「◇◇Kくん」と自分の名前を言った。「どうして、破ったの？」と尋ねると「悪い子」と答えた。「ズボン破ったの誰ですか？」と、また尋ねると「◇◇Kくん」と答えた。「どうして破ったの？」とまた聞くと、「悪いこと」と返事が来た。同じことをなんども聞き返したが、「どうして破ったの？」という質問になると、「悪い子」又は「悪いこと」という答えであった。叱る気がないのに、本人にとつてはこつてり叱られている場面になってしまっていた。破かないようにしようということと着替えなさいと伝えその場を終わった。

この場合のように「どうして」という質問に、理由を答えるよりも、「破く事は悪いこと」という結論に早送りをしてその場を逃げたいとも取れる。しかし、「どうして」という質問は苦手なことも

確かなようだ。Kくんの場合、外出したい、デパートにいきたい、買い物したい、というサインのようであるがストレートに要求を言えないための行動のようである。「どうして」という質問に答えたところで「悪いこと」である。質問の意味・答え方・答えた後に来るもの（叱られる）が混乱して、早おくりして謝るほうに行っているように思われる。この訓練は、理由を一つでも言えれば「よし」として、理由を言うまで本人に試行錯誤を繰り返えさせるしかない。療育の現場では、「どうして」という性質の質問には「基本的な不得手な障害」をもって園生であると知っていながら、指導しなければならぬ。指導される園生は私達が想像する以上に苦しいだろう。職員は園生一人一人の障害の性質を（個別に）知らないとな無理をしてしまう。



歯科検診

武藤 悦子

去る二月七日に歯科衛生士専門学院の先生や生徒さん30数名に来て頂いて歯科検診を行いました。

初めてのことで、みんなちゃんと受けることができるかと不安でした。来て下さった生徒さんは、みんなやさしそうなお姉さんでしたが、白衣を来ておられるのを見てみんなが怖がらないかしらと思つたのですが、優しい声かけのおかげで2、3人を除いた他は、すんなり検査を受ける事ができました。

検査の結果は、健全歯64%、未処置歯13%、処置歯17%、喪失歯1%、でした。思ったより未処置歯は少なかつたようです。又、歯肉炎42人中30人の70%、歯石沈着42人中29人の67%と高い数字が出ています。歯磨き状態は良い3%（1人）、普通47%（20人）悪い50%（21人）で毎食後歯磨きをしているのですが、磨き残しがかなりあるようです。又歯ブラシの大

きさも大き過ぎて、口にあつていないことがわかりました。

個人で見ると虫歯が一本もない人もいれば、最高26本の人もいました。歯の治療は、簡単にさせてくれない人も多く、全身麻酔で治療している人が数名います。

まずは虫歯にならない為の予防が大事なのでですね。又治療も考えて行きたいと思ひます。それには歯科医院に慣れる事が先決ですが、

検査後、先生方から三気の里の園生の歯は比較的きれいだと総評を頂きました。少しは歯磨き指導の効果があつたのでしょうか、嬉しく思ひました。

最後に歯科衛生士専門学院の皆さんありがとうございました。又機会があつたら是非お願いしたいと思ひます。



合民堂呈出年度末中

「物思う年度末」

年末に入ると、あれやこれや一年間を振り返る機会が多くなります。すると、あれやこれや、やり残した事の多さに溜息が出てきます。その溜息を糧に、又一年頑張るのです。一番活気づくはずの今なのに。

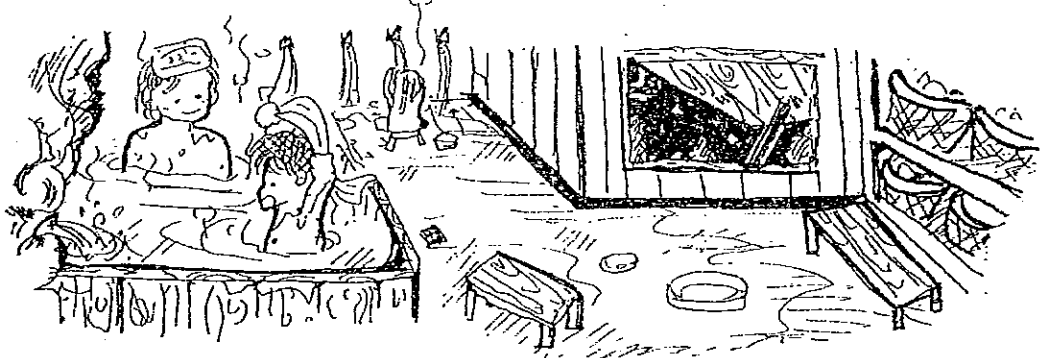
思う事は皆同じでこの三気の里で働いています。三度の飯より好きな物はやっぱり飯で、その期待を一身に浴び、園生に触れ、考え、感じながらの仕事です。人それぞれ感じ方、考え方は違つても、一つの物を作り上げようとしてるのは確かです。そこで何か最近感じて居るのです。決して良いものではありません。これは自己反省の時が来ているのではと思ひます。食堂営業中の看板を掲げながら、秋ならぬ春間近いこのころに、物思うのは私だけでしょうか。

帆保

3班 でんがく

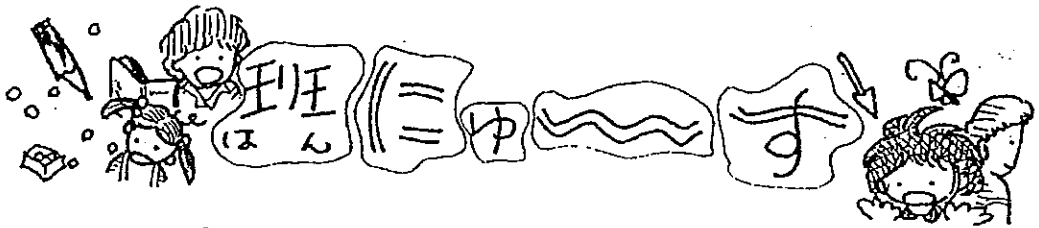
食べ物を目の前に、炭火の熱さにたえること1時間。冬とは思えぬ室内の熱気に上着を脱いで、汗を拭き拭き、味噌をぬったり、焼く面を裏返したり。高森は“田楽保存会”と、地獄温泉は“清風荘”へ。お母さん方有志数名と、ツアーをくんで、“異常気象”の最近には珍しい“冬かな？”と感じる寒さの中、バスで外出。いや～高森は田楽の町で、一回、間違えてしまったが、ようやくたどりついた。食べ物を目の前に、“待てるカナ・・・”と心配した。がそこはどっこいちゃんと待っていた。あまりにも待ちすぎで田楽を“炭”に等しく焦がしてしまったのも、若干あった。うどん麺によくたのが入っているだご汁と、粟ごはん。おかわりもしてみんな満腹、満腹。帰りのバスは、地獄温泉で、泳いだり、潜ったりしてくつろいだせいかぐったり。おやつを食べて“もう、動けませーん。”いやはや、み～んなお疲れ様。何と言っても今回一番疲れたのは、園長と田之上指導員。男の子ばかりの3班は、温泉に入るときやトイレに行くときは男手！が必要なのだ。

男性ボランティアさん。よろしく！ 大塚



4班 いい湯だな～イイ湯ナ

2月に入って初日の1日に、4班はあいにくの冷たい雨の降る中、日頃の作業の疲れをとろうとJRと南阿蘇鉄道のレールバスを乗り継いで、白水温泉センターに行きました。これまでののんき号でのレクとはひと味違って公共の交通機関を利用するとあって皆んなハラハラドキドキ（してたのは職員ばかり）でした。レールバスからの車窓の眺めは、運転手さんの説明も加わって絶景でした。中松駅で下車して歩くこと約30分。途中弱い雨に降られながらも白水温泉センターに着きました。大部屋では、弁当をペロリとたいらげ、いざ温泉へ——園ではのんびりつかる事のできない園生も広々としたお風呂で、気持ちよさそうに入っていました。中にはダイエット？のためか、サウナに挑戦した人もいました。回りの方々の温かい配慮でとても楽しめた1日でした。JRの中で席を譲っていただいた方、大部屋でスペースをあけてくださった陣内の方々、その他沢山の方々、ありがとうございました。 木下



1 班 THE GAMAN

2月の1班レクは、天草松島竜宮荘で岩風呂に入るといふことで小雨のパラつくなか天草に向かったのであった。さて竜宮荘に着くや否やお弁当コールが飛び交います、「いただきま〜す!」。ランチタイムが終わると岩風呂へいざ出陣。温泉は心を休めるために入るものといふのは凡人の考え。三気の里のみんなにとっては、これすなわち修業の場、女湯までみんなの修業する声が聞こえます。この修業の後には、心のやすらぎ、おやつの時間、みんなの顔もニコニコです。今回は豪華にもおやつの後のお楽しみがあった。3号線沿いにあるマサンドというレストランで2度目のおやつ「オレンジジュースとピザ」。う〜ん、ここで又みんなの修業が始まるのであった。「みんなのテーブルにジュースとピザが出るまで待ってね。」う〜んつらいがこれも修業の一つ、みんな頑張れ!と心の中で祈ったのは私だけでしょうか?ここでもみんな無事修業を終えてニコニコ笑顔で三気の里へと帰ったのであった。修業を積んで頑張れる人になろうね、みんなファイト!

P. S お世話になった竜宮荘の皆さん、マサンドの皆さんありがとうございました。

伊石

2 班 鹿児島ラリー

さあ!下見も十分。行程はというと、ドライブ7時間、休憩は1時間のハードラリー。えっ、下見したの?すごいと馬鹿ねの一言。園生は鹿児島に行けると大喜び。運転手は私一人、睡眠十分。8時半、全員集合、皆はウキウキ、職員は少々硬い表情、ただ浩ちゃん一人「6時に帰るよ!」とは彼だけがてんまつを知っていたのだろう。

高速道路の飛ぶような景色を食い入るように眺めていたのは、英ちゃん、辰治さん。12時半、予定通り鹿児島城山公園に到着。景色よりお弁当とおいしそうに食べていたのは民さん、久美ちゃん、武彦くん。何を思ったのか、お弁当より景色と走り回っていた文ちゃん。露店を見て大喜びの新人幸男さんは、じっくり品定め、西郷さんのどう像の土産を買っていました。桜島をバックに記念撮影、ハイポーズ。少々予定をオーバーした帰路は行きにも増して静か、当然職員が寝ているからです。次第に暗くなり、三気の里に戻ったのは6時を過ぎてしまいました。また行こうと行ってくれていますが、私は2度と行きたくない。夜8時には寝たいと思いました。

坂井

どんどや

田辺 剛政

一月一八日(木)、前日の天気予報では、午後から雨の確立70%と高く、当日も朝からどんより鉛色の曇り空。午後から行われる予定を、前日までの準備が無駄にならないようにと午前に繰り上げ、急ぎ足での会場設営となった。園生たちも職員の不手際にももう慣れたもので掃除、ホームルーム、運動場へと何の混乱もなく移動し、すぐさまどんどやに点火。新年会で書いた書初めや破摩矢等を燃やし、一年の健康と安全を祈る。園生たちも高く燃え上がる炎を遠巻きにして、目はしっかりと竹に差してある団子ノおきになるのを待つてようやく団子を手にした園生は、焼く前に食べてしまったり、焼くのはいいが竹まで焼いてしまったりと団子ごと焼け落ちてしまったりと賑やかに進行し、空を見上げると皆の元気の良さに雲も退散、時々陽が差すようになり無事にどんど

や祭りを終えることが出来た。



ニューフェイス登場



2月、三気の里に西合志より幸男さん50才を迎えました。とても物静かで理知的な人です。お父さん、お母さんは亡くなられて現在までは、知人のお世話で一人住まいをしていました。

帰宅は自分でバスに乗り、一人家で過ごす、エライ。担当より自立しているのです。 坂井

新年会

木下 昭二



2月6日に中華園の会場をお借りして、保護者と職員の新年会が催されました。

理事長、園長、保護者会の橋村さんの挨拶の後、土井園長の乾杯の音頭で会が進みました。最初は、料理やお酒に舌鼓を打っていたお父さん、お母さんや職員も、段々と話に熱中し、こちらのテーブルでは笑いあり、こちらのテーブルでは真剣な療育の話しあり、またもう一方のテーブルでは〇〇先生が奇麗になったとか、いやいや□□のお母さん程では・・・といったふうに、楽しく和やかな雰囲気の中で会が盛り上がりました。楽しく有意義な時間が過ぎるのは早いもので、2時間強の時間はあっという間でした。最後は、末永事務長の音頭により万歳三唱で終宴となり、それぞれに帰途につきました。皆さんお疲れ様でした。そして、園で仕事をしていた職員の方々、御苦労様でした。

木下



ぼらんていあ通信

「ボランティア学習会に

参加して」

尚綱短期大学 小崎千和

「道をまちがえたかな・・・」

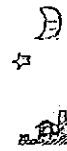
と思いつつ、やっとたどりついた自然の里は、名前のとおり自然に恵まれた環境のいい場所にあります。

木や草を燃やしたり、解体したりという作業を行いました。が、あの広大な土地をしていくのはとても大変だろうと思いましたが、でも昔から自然の中で楽しく過ごしたいと思っていた私にとっては、自分の家を作っているようでとても楽しく過ごせました。

また、お昼になりお母さん方の作られた手料理がとてもおいしくて、つつい豚汁を2杯も食べてしまいました。

これから先、この自然の里がどのように出来るのかがとても楽しみです。そして今後また機会

があつたら、また参加して、勉強させていたただきたいと思いました。



2月12日、ボランティア学習会として「自然の里」を見学し、職員とボランティアの共同作業をさせて戴きました。自然の里のたぐさんの会員の皆様に歓迎して戴きました。一緒に作業をしたり、お昼ご飯をごちそうして戴いたり、とても楽しく過ごしました。ありがとうございました。 平川

与えになる

栄養の話し



だんだん暖かくなって、春もすぐ目の前にやってきています。暖かいからといって油断して、薄着をしていると、風邪をひくので注意しましょう。

さて、今回は「牛乳」について書きます。牛乳は、たんぱく質、カルシウムをはじめ各種栄養素をバランスよく含む優れた食品で「主に体をつくる」食品群に入ります。

冬になると、牛乳を温めて飲みますね。この時、牛乳の表面に薄い皮膜ができます。この皮膜はどうしてできるか知っていますか？これは、たんぱく質と脂肪、無機質が吸着され熱で変化するからです。皮膜の70%以上は、脂肪で20%がアルブミン、他に少量の乳糖も含まれているので、この皮膜を取り除くことは、栄養素の損失です。

一日に一本、できるだけ牛乳は摂取したいものです。 長友



3月の行事予定

1(木)4班レク	11(日)	21(水)
2(金)	12(月)	22(木)2班レク
3(土)シーツ交換	13(火)	23(金)大掃除
4(日)	14(水)	24(土)
5(月)	15(木)1班レク	防災訓練 誕生会 25(日)
6(火)	16(金)	26(月)
7(水)体重測定	17(土)シーツ交換	27(火)
8(木)3班レク	18(日)	28(水)
9(金)	19(月)	29(木)
10(土)帰宅日 父兄会 保護者会	20(火)	30(金)帰宅日
		31(土)ケース検討会

後援協会云だより

平成元年度後援会会員紹介

竹中精肉支店 森川瑋介

大塚鮮魚店 森田一幸

松野建蔵 島津健二

田中照見

二月二十六日付け

※敬称略

一雨ごとにあたたかくなり阿蘇から吹く冷たい風も心地よく感じられるようになりました。

今回は、たんぼぼを講読して下さっている皆様に三気の会御支援をお願いやボランティア募集などをアンケートによってご協力を得たいと思しますので、よろしくお願ひします。

現在会員の皆様、新年度になりましたら継続して会員となつて下さるようお願いいたします。

今月御入会の皆様ありがとうございます。

やろう会3月の日程

- 1 (木) 国本・清田・井口
 - 8 (木) 荒牧・松枝・中嶋
 - 10 (土) 前田・有馬・高野
 - 15 (木) 松村・福田・岩永
 - 22 (木) 井手上・中村き・田中
 - 24 (土) 竹下・中村み・村上
 - 29 (木) 金森・佐々木・藤崎
- いつも、お手伝い御苦勞様です。

お礼

三気の里も開園以来、いろいろな方々のお世話になってきました。ほんの一部ですがご紹介させて頂きます。池永様(しいたけの原木)・坂本様(ビニールハウス)・小川様(楠)・山中様(豚糞)・坂口様(鶏糞)・日本通運様(梱包材)・興呂木様(久木野の畑)・寺田様(ユンボ)・古閑様(りんごの木)その他たくさんのご協力を頂きました。皆様から機械等を貸して頂いたり、いろいろ寄付を頂いたおかげで、作業も充実し生活しやすい環境になって来ました。本当に感謝しております。尚、紙面の都合上紹介できなかった方にはお詫び申し上げます。